



かがやき



海田西小学校

通級指導教室だより No.22

令和6年2月28日(水)

原因が分かると、見方が変わるかも？！

保護者の方から、「～ができるようになってほしいのに、何度言っても伝わらない。」「どうしてそんなことをするのか分からない。」「注意すると逆ギレする。」等、相談を受けることがよくあります。

私自身、「こうなってほしい。」と、思えば思う程、うまくいかない事がもどかしく、力不足を痛感して落ち込むことがあります。

ですが、子ども達はもっとしんどい思いを抱えて悩んでいるのかもしれませんが。「どうしてそんなことを・・・」の部分が少しでも分かると、寄り添うことができるかもしれません。

例えば、自閉傾向のある子ども達の中には、感覚過敏から人との関わりが苦手になっている場合もあります。

「大きな音が耐えられない。」
「～の音は苦手。」
「近づかれると緊張する。」
「触れられるのが嫌。」



そばにいられると落ち着かない感覚になる子は、その感覚を相手にうまく伝えることができず、自己防衛から「あっち行け！」と叫んだり、押しのけたりします。それでも、離れてもらえない時は、教室から飛び出してしまうこともあります。

行動だけ見ると、注意・指導を受ける事項ですが、「なぜ、そうするのか」専門的な知識をもっていると、見方が変わってきますね。この場合、距離を保つことで落ち着きます。

この子のためにと想着してしていることが、もしかしたら不適切な接し方になっている場合もあるかもしれません。

視覚・嗅覚・味覚に関しても、独特の感じ方をする場合があります。

「色や形が気持ち悪い。」
「混ぜると、ごちゃごちゃに見えて食べられない。」
「匂いで気分が悪くなる。」
「かたいもの・熱いものは痛い。」



そのため、極端な偏食になってしまうこともあります。

ですが、この感覚を治すことはできません。食べることを無理強いすると、心理的にも身体的にも、長期的な悪影響を生じさせることがあります。

とは言え、いろいろな物を楽しく食べられるようにしていきたいですね。
そこで、偏食指導の五つの原則・・・

① 食べない原因を考える

食べた経験がなくて不安？ 噛んだ時の音が嫌？ 匂い？ 味？

② スモールステップで取り組む

わずかな量からトライ！

「食べられた！」という思いをもたす

わずかな量とは・・・
飲み物なら1滴
食べ物なら
米粒4分の1程度

③ 強制しない

嫌な体験が記憶に残ると、次から強い拒否反応がおこる

④ 環境等の変化を少なくする

食べる場所・手順をこころろ変えない

⑤ 少しでも食べられたら褒める

静かに褒める（大げさ×）

「後ひとくち」と
言ったら、
必ず約束を守る

偏食指導は、低学年の時期までは、効果が出ないことが多いそうです。

しかし、取り組み続けていると、生涯にわたっての食の広がりにつながります。

「食べてみようかな。」という気持ちになったり、パニックを起こさずに自分なりの方法で対処できるようになったりすることを目指して、学校でも指導していきます。

今年度も残すところ、後わずかとなりました。6年生は、いよいよ卒業ですね。

通級指導教室では、今年度の課題・成果について分析し、来年度に向けて準備をしています。ご家庭での様子も聞かせていただくとありがたいです。

来年度の通級開始日、時間割等につきましては、新学期にお伝えします。今年度も大変お世話になりました。いたらない点多々あった中、いつもあたたかくご協力・ご支援くださったこと、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

